

令和6年度 事業報告書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

1. 設置する学校・学科等

専修大学北上高等学校

普通科・グローバルビジネス科・メカニクエンジニアリング科(自動車科)

専修大学北上福祉教育専門学校

保育科・福祉介護科

認定こども園 専修大学北上幼稚園

0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児

2. 理事会・評議員会の構成 (令和7年3月31日現在)

・理事定数 13人 以上 16人 以内

現在数 14人 (内、理事長1、常勤理事4)

選任区分 設置する学校・園の長

評議員のうちから評議員会で選任

学識経験者のうち理事会で選任

学校法人専修大学より派遣

・監事定数 2人

現在数 2人 選任区分 理事長が選任

・評議員定数 28人 以上 33人 以内

現在数 31人 選任区分 設置する学校・園の長

設置する学校の卒業生から理事会で選任

法人の職員のうちから理事会で選任

学識経験者として理事会で選任

学校法人専修大学より派遣

教職員数

令和6年5月1日現在

	教 員 数						職 員 数						合 計
	本 務					非常勤 講師	本 務					非常勤 職員	
	専任 教諭	特別 講師	特別 教諭	常勤 講師	小計		事務長	専任 職員	常勤 職員	専任 技職	小計		
高等学校	44	1	1	5	51	11	1	7	1	2	11	5	78
専門学校	9	2		1	12	25	※(1)	¹ ※(1)			1	1	39
こども園	18	1		2	21	17	※(1)	1			1	4	43
計	71	4	1	8	84	53	1	9	1	2	13	10	160

※特別講師は、再任用者のことを指す

※特別教諭は、定年者を含み、校(園)長の申し出により理事長が必要と認めたもの

※高等学校専任職員1名は、専門学校事務長兼務

※高等学校専任職員1名は、専門学校事務職員兼務

※高等学校事務長は、こども園事務長兼務

令和6年度 北上学園事業報告の評価

目標値の考え方

各校の事業計画の目標について、年度末の実績値に応じて、「A・B・C」の3段階で示します。

達成率	
A	おおむね目標値どおりの場合 (目標値に対して110%未満、90%以上の実績値を達成した場合)
B	達成している部分もあるが、不十分である場合 (目標値の90%未満の実績値の場合)
C	目標値を下回った場合(全く達成していない) (目標値の50%未満の実績値の場合)

令和6年度事業（教育活動）計画に基づいた報告

【専修大学北上高等学校】

入学定員（300名）の充足を第一の目的に据え、そのために、生徒・保護者・教職員の満足度を高め、地域に開かれた学校として、社会に貢献する有為な人材を育てる教育を行う。

令和7年度入学生

[全日制課程] 294名／300名 充足率98.0%

普通科 189／185名入学(充足率102.2%)

グローバルビジネス科 73／80名入学(充足率91.3%)

メカニックエンジニアリング科 32／35名入学(充足率91.4%)

[通信制課程] 10名

普通科 通学コース 6名、 通信コース 4名

1 教育内容の充実について

達成度 B

新カリキュラムの完成年度「未来を創る学び」の実現に向けて、普通科各専攻、グローバルビジネス科、新たにスタートしたメカニックエンジニアリング科とも、外部人材も活用しながら、学びの充実を図り、大きな成果を収めることができた。

しかし、「未来を創る学び」の一層の充実に向けては、道半ばであり、次年度以降も継続して努力と工夫を重ね、この学びの改革を、より一層の充実・発展させていきたい。

(1) 建学の精神を柱とした道德教育を充実させ、豊かな人間性を身につける。

建学の精神である「報恩奉仕」の説明用紙を各クラスに掲示するとともに、映画「学校をつくろう」鑑賞会を1年生で企画して実施した。日々のHR活動の充実を図り、規範意識・ルール・マナーの徹底等を行った。良い行いも積極的に紹介しながら、豊かな人間性を身につけさせる指導を実践した。

(2) 家庭や関係機関と連携しながら、規範意識を高め、基本的生活習慣の確立を図る。

毎朝複数にてHRを行い、担任・副担任そして学年会の連携により指導を実践し、朝学習や連絡事項の徹底を図った。また、夏と冬の三者面談を充実させるとともに、適宜生徒や保護者と面談を行うなど、情報共有に努めた。さらに、SSWrやSCを活用し、ケース会議を定期的に開催して、様々な課題解決を図った。

(3) 新教育課程完成年度として、スクールミッション・スクールポリシーに沿った、適切な学習を推進する。

新教育課程完成年度を迎え、普通科各コース・専攻の続き、GB科、自動車科・ME科に於いても関係各所のご協力のもと、特色ある授業を充実させることができた。シラバスに、建学の精神、校訓をもとにしたルーブリックに沿っての教育活動を表し生徒に示しながら実践することにより、生徒一人ひとりの生きる力を育むとともに、未来を創る学びの実践に努めた。

(4) 新学科・コースの特性を生かした、特色ある教育活動の実践と検証を図る。

普通科改革のコンソーシアムを発展させ、GB科・自動車科・ME科も含めて「未来を創る学び推進委員会」を再構築し2回開催し、各学科・専攻のメンター及び委員により適切なアドバイスをいただき、改善を図った。学びの改革は、進路実績や資格取得にも大きな成果を収めることができたが、生徒の可能性はまだまだ発揮できる余地はあり一層の改善に取り組みたい。

(5) 新たな進路指導体制・システムを構築し、国公立大学・難関大学等生徒の希望実現に努める。

新教育課程1期生として、11年ぶりに国公立大学合格二桁達成等、生徒一人ひとりに寄り添う丁寧な指導と生徒が自ら努力する態勢を構築し、難関大学や看護系合格者、難関就

職・公務員等大きな成果を収めることができた。生徒の可能性や潜在能力はまだまだあり、今後も、専北塾をはじめとする生徒の多様なキャリア育成に寄与できるプログラムを提供したい。

(6) 専北塾の充実を図り、多様な能力の開発と個性を伸ばす活躍・経験の場を設定する。

専北塾の実施については定着してきたが、自主性を重んじる中で生徒の参加率と教員の講座開講数が大きな課題となっている。進学にとらわれず生徒の興味関心に寄り添ったプログラムを提供するとともに課外活動がより魅力的になるように、今後も生徒のより自主的・主体的な活動となるよう、内容に工夫を凝らして、活性化を図りたい。

(7) ICT環境の充実を図り、新校舎を生かした新たな学びを実現する。

文部科学省のDXハイスクールに採択されたことにより、一層のよりICTを活用した教育実践を展開することができた。一人一台端末導入2年目となったが、大きなトラブルや問題なく、授業に活用することができている。新校舎の特性を生かした学びの発表会も実施することができ、次年度も継続申請し、より環境整備に努めたい。

(8) 自らの学びをデザインし、キャリアを自分で切り拓ける、探究型学習を充実する。

本校総合的な探究の時間である「SENTAN」については、新たな取り組みとして、ICTを活用した文理横断型授業への挑戦である、異教科のコラボ授業を実施した。さらに、全職員によるゼミの展開では、北上市や関係団体の協力も得ながら、多様な生徒の興味・関心にアプローチした他、すべての教科で探究型の授業を推奨し実践に向けて取り組んだ。

(9) 教育相談体制の充実を図り、支援が必要な生徒や学校不適応への適切な対応を行う。

学年会からの定期的な情報を集約し、ほのぼの担当教員を中心に、スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSWr)をフル活用したほか、学習支援員の活用により、生徒や保護者の困り感に寄り添うことができた。定期的にケース会議を持ち、関係機関との連携も図り課題の解決に努めた。

(10) 学校評価・授業評価の実施結果を活用し、改善とより一層の充実を図る。

学校評価については、今年度はBLENDで全保護者に対しアンケートを実施し、集計後保護者に公表した(別紙参照)。調査項目を例年と変えた部分もあり昨年との比較はないが、特に評価の振るわない部分、そして教員との意識のずれが見られる点については改善を図ります。授業評価は、全校生徒に対し同様にBLENDを使用し、全教科の授業評価のアンケートを実施し集約後、職員が授業改善に活用したほか、校長が教員の指導にも利用した。

2 教員の資質・能力の向上について

達成度 B

「生徒とともに学び続け、成長し続ける教職員集団」を合言葉に、月一回の定期的な研修会を実のあるものとしてきている。職員の資質・能力の向上に向けては不断の努力を続けなくてはならず、今後は自ら研修に取り組む体制作り、仕掛け作りが課題と考える。さらに、職歴に応じた研修体制の構築に向けて一層取り組みを進めたい。

(1) 授業を第一に、指導と評価の一体化を図るため、授業改善には不断の努力で取り組む。

各教科での打ち合わせを推奨し、指導法や評価法の共有を図るべく、研修を企画して実践した。自分の授業内だけではなく、基礎力診断テスト等全国基準でどうあるべきかを追求した。その結果、多くの教科で改善が見られ数値にあらわれた。日々授業改善に取り組む機運を醸成した。定例の研修会においても、ICTの活用を始め、授業改善のテーマを数多く実践するとともに職員同士の互見授業を推奨した。

(2) 生徒の観察に努め、きめ細やかな指導と速やかな支援を行う。

複数教員によるHRの実施を定着させ、定期的な面談の実施とともに日常的アセスメントを意識して、学年会での情報共有、ケース会議を経て、SCやSSWrとの連携や学習支

援員を授業に於いて活用して、きめ細やかで速やかに対応することにより保健室利用者は激減した。

(3) 教員の資質・能力の向上を目指し、定例の研修会を充実させる。

毎月1回、職員会議時に行う定例の研修会は定着し、内容も多岐にわたり充実を図っている。講師についても、内部・外部・事例発表等、実のあるものになるように工夫している。いつでもオンデマンドで研修できる Find! アクティブラーナーの活用も推奨しており、まだできないでいる自分の職歴にあった研修を勧めるなど、一層計画的研修体制の構築に取り組みたい。

(4) 人事評価制度を活用し、職歴に応じて自己啓発に努める環境を整える。

トライアル期間を終え、自己申告シートの提出と管理職との面接を重ね、職員と相互理解を図ることに努めた。職員はシートの提出により、考える機会を得て、自己啓発に努めるいい機会となっている。予定通り、定期昇給に実効性あるものとして実施することができた。

(5) 校内・校外での必要な研修への参加を促し、成果を伝達して共有する。

東北私学初任者研修会が岩手県開催であったため、過去5年にさかのぼり多くの採用者が研修に参加することができた。私学協会主催の県の研修会には多くが参加し本校がICT活用について担当した。その他、希望による校外研修への参加も極力認めた。研修後は、研修内容の共有を図ったほか、先進校視察については、職員会議で報告を行い情報について共有した。

(6) コンプライアンス（法令遵守）を推進するとともに、働き方改革にも取り組む。

コンプライアンスについては、毎月の職員会議等で校長からの講話を実施し、具体例を話して法令遵守に努めた。働き方改革については、校務のICT化の一層の推進に向けて、DXアドバイザーを有効に活用し、定期・不定期に研修を設けて、校務の効率化・新たな働き方改革にチャレンジしている。

3 連携強化について（系列校、地域社会、関係機関）

達成度 B

北上市と学園による「まちなかキャンパスにおける人材育成に関する連携協定」により、様々な連携を取りながら諸事業を実践することができた。系列校との連携も専修大学・石巻専修大学をはじめ、魅力ある取り組みを実施することができたが一層の工夫により連携を強化していきたい。

(1) 系列校との連携・交流により、上級学校への進学動機付けと意欲を育てる。

◇専修大学高大連携

- ①専修大学・系列学校合同説明会（1・2年全員6月）
- ②首都圏大学見学会（10月）
- ③専修大学フェスティバル参加（10月）
- ④専修大学エクステンションセンター主催模擬法廷参加（11月）
- ⑤専修大学保護者見学会（関東地区保護者）（11月）
- ⑥本校教員見学会（3月）
- ⑦「ニュース専修」生徒・保護者・教職員配信（月1）

◇専修大学

・系列学校合同説明会

- ①専修系列説明会（6月）
- ②専修大学先輩と語る会（本校実施）（8月）
- ③SENSHU フェア（リモート2年対象）（9月）
- ④専修大学フェスティバル（10月）

**◇北上福祉教育専門学校
との連携事業**

- ①高専連携会議（5月・3月実施）
- ②学校説明会（生徒向け・KTSにて）（6月実施）

③新任教員向け学校説明会（6月実施）

④保育・福祉介護系ガイダンス（生徒・保護者）（3月実施）

（2）高大・高専・高幼連携事業を通して、特色ある学びを充実させ、豊かな心の育成を行う。

◇石巻専修大学高大連携接続科目授業

普通科DLコース2年105名受講 各学部教授による4講座を受講

他の連携 ①石巻専修大学 グローカルビジネス科1・2年対象160名（5/16実施）

「簿記」講話 平澤 哲 氏

②石巻専修大学で講義受講とゼミナール参加 普通科含む66名参加（12/3）

（グローカルビジネス科2年生＝簿記グレード上位者36名、普通科30名）

③連携出前授業 自動車科1年生石巻専修大学 川島純一郎教授

「自動車の未来・エンジンの将来」 （2/16）

④高大連携実習 自動車科2年生27名（2/19～20）

⑤連携出前授業 グローカルビジネス科1年生 石巻専修大学 田村真介准教授

「出づるを制して入るを量る」 （簿記） （2月）

⑥連携出前授業（簿記トレ7/29～8/1）（春の集中講座3/17～21）

石巻専修大学 平澤 哲 氏

⑦北上幼稚園食育交流（4回実施＝6月/12月）

⑧北上幼稚園児との英会話教室

（5～3月 年長・年中クラス各6回、年少クラス4回 計16回）

⑨北上幼稚園とのサッカー教室（5月 計4回実施）

（3）北上市との提携による、地域社会・関係機関との連携を通して、人材育成に努める。

北上市との「まちなかキャンパスにおける人材育成に関する連携協定」により、「情報ビジネス専攻」では、市内稲瀬地区と持続可能な米づくりを推進するプロジェクト「コメプロ」を実施したほか、「SENTAN」にランフェスの企画に参加するゼミができたり、強い結びつきの中、連携を取って種々活動した。

（4）SVきたかみとの連携により部活動改革・働き方改革に繋がる取り組みにする。

SVきたかみと学内部活動との連携は、新たな広がりを見せているが、全校的な連携には至っていない。TOTO補助事業としてあと2年の間に部活動改革・働き方改革に繋がる取り組みとして、形作りたい。今後も様々な形で地域貢献に寄与する取り組みを発展させていきたい。

4 広報活動の強化について

達成度 B

学校HPの運用が定まらず、情報発信のスピード感はもとより、量・質ともに充実とは程遠い。SNSの発信は改善されているが、一般に浸透しているとは言い難い。引き続き充実を図るために方法を模索したい。入試やOSでのWEB申し込みも浸透し、だいぶ定着してきたが、さらに適切に運用できるように努めていきたい。

（1）中学生・中学生の保護者・中学校及び学習塾等への様々な広報活動を展開する。

①中学校との引きつぎ・情報交換（メール）

②相談会（2回実施＝34名/プレゼン対策17名）

③中学校高校説明会へ参加29校（前年より1校減）、入試事務説明会（11月実施）7校

④和賀地区中学校進路指導研究会（中学校教諭対象）講師として派遣

⑤夏の特別企画『親子で考える高校入試』（10月実施：学習塾主催）へ参加

⑥学校案内パンフレット（カラー35ページ＝7500部作製）

⑦生徒募集要項4000部作製

(2) HP・SNSの充実に努め、教育内容及び実践活動内容を広く世間に知らせる。

ホームページの運用については、根本的な運用について、一から検討していきたい。様々なSNSの発信については部活動を中心に積極的に発信しているが、組織的という点については、今後も課題である。より多くの人に見ていただけるように工夫して情報発信していきたい。

(3) ボランティア活動等に積極的に取り組み、地域への貢献と広報の役割を果たす。

教頭を窓口にも各所からのボランティア要請には、全校に呼びかけながらできるだけ応えた。探究部他、部活動単位でも様々なボランティア活動への取り組みを推奨しており、今後も地域貢献と広報の役割を果たすべく一層の活動の活発化に努めたい。

5 安心・安全な環境整備について

達成度 A

新校舎の一体整備事業が、工事関係者の皆さまの多大なご尽力と生徒・教職員の協力により無事故で無事に完了することができた。また、大きな学校事故やいじめの重大事態に繋がる事案はないが、生徒の安全・安心については、不斷の努力で臨みたい。いじめや各種トラブルについては、速やかで組織的な対応を心がけたが、今以上に早期発見・早期解決を図るよう努めたい。

(1) 人工芝グラウンドや外構整備工事期間の安全管理の徹底と日常の安全教育の充実に努める。

新校舎建替一体整備事業は無事に無事故で事業を終えることができた。設計・施工と打ち合わせを密に行い、工事期間中の安全に十分配慮した。また、日常の安全計画・危機管理マニュアル・防災マニュアルを徹底しながら、避難訓練を実施することで、安全教育を充実させた。

(2) 多様性を尊重し、生徒一人ひとりが相互に尊重しあう姿勢の醸成を図る。

スクールカウンセラーによる、グループエンカウンターを1・2年生では年2回実施することで、クラスの集団作り・相互理解が深まった。全校ガイダンスや日々のホームルームの他、学年会等でも独自にガイダンスを実施して指導することにより、よい人間関係作りに努めた。

(3) いじめや体罰・暴言の未然防止と生活実態調査に基づく適切な対応に努める。

いじめ・生活アンケートを年3回の実施し、いじめの早期発見、早期解決に努めた。いじめ事案に対しては、早期に組織的に対応することで重大事態になるようなことはない。

6 旧校舎の解体や人工芝グラウンド・外構整備工事を安全に進めながら、新教育課程の完成年度・メカニクエンジニアリング科(ME科)1回生の立ち上げにあたり、新校舎を活かした、より充実した教育活動を実践します。また、通信制課程開校に向けた具体的準備を進め、地域に対する周知と生徒募集に努める。校舎建て替え事業に際し、安全な新校舎の建築・移転を推進し、新校舎を活かした、より充実した教育活動を実践します。また、通信制課程開校に向けた具体的検討を進めます。

達成度 A

新校舎建て替え一体整備事業は9月をもって無事に完了した。工事中は施工業者と十分な打ち合わせを行い、生徒・職員に対し適切に情報提供し、当然であるが、事故なく工事を終えることができた。避難訓練も工事の終了を待って、新しい校舎グラウンドで適切に実施した。通信制課程開校に向けては、了承された設置計画に基づき、募集活動、入試を実施し、無事に開講することができた。

7 スポーツ・文化・学術の主な活動・成果

- | | | |
|-----------|----------------|------|
| (1) 硬式野球部 | 全国高校野球選手権岩手県大会 | 2回戦 |
| | 秋季東北地区高校野球岩手大会 | ベスト4 |
| (2) 軟式野球部 | 県高校総体県大会 | 準優勝 |

	全国高等学校野球選手権岩手県大会	優勝（４年連続２４度目）
	東北地区高校軟式野球東東北大会	第３位
	県高校新人大会	優勝（２年連続２５度目）
	秋季東北地区高校軟式野球大会	優勝（４年ぶり３度目）
(３) 卓球部	県高校総体県大会（男子団体）	優勝（１２年連続２９度目）
	（女子団体）	第３位
	東北高校選手権大会（男子団体）	優勝（初優勝）
	県高校新人大会（男子団体）	優勝（２１年連続３８度目）
	東北選抜大会	優勝（初）※全国選抜大会出場
(４) 陸上部	高総体 男子800m	３位
	女子100m・200m	２位
	女子400mH・4×400mR	３位
	県新人 女子200m・4×400mR	２位
(５) 体操部	県高校総体県大会（男子団体）	準優勝
	県新人戦男子団体総合	準優勝
(６) サッカ一部	県高校総体（男子）	準優勝
	東北高校選手権大会	準優勝
	県選手権大会（男子）	優勝（３年ぶり３度目）
	県高校総体（女子）	優勝（１１年連続１１度目）
	全国高校総合体育大会（女子）	出場
	県選手権大会（女子）	優勝（８年連続１０度目）
	高校女子選手権大会県大会（女子）	優勝（１１年連続１１度目）
	県新人大会（女子）	優勝（７年連続１０度目）
	県私学大会（男子）	準優勝（全国私学大会出場）
(７) バレーボール部	県新人大会（男子）	ベスト４
	県高校総体（男子）	３位
(８) バドミントン部	高総体 男子個人81kg級	東北大会出場
(９) 柔道部	県高校選抜大会（男子）	３位
(10) ハンドボール部	全日本吹奏楽コンクール岩手県大会	金賞
(11) 吹奏楽部	東北吹奏楽コンクール	銅賞
	全国マーチング・バンド・バトントワリング東北大会	金賞 ※４年連続１７度目
	全国地域安全モデルポスター	「最優秀賞」「優秀賞」
(12) 美術部	北上市明るい選挙啓発ポスターコンクール	「最優秀賞」「優秀賞」「優良賞」
(13) 生徒会	生徒会誌コンクール	最優秀賞相当特別賞（４年連続４度目）

令和6年度 学校評価アンケート集計結果（高等学校）

1 実施時期

2月18日(火) 保護者向け依頼文書を配布、B L E N Dで保護者へ依頼
 2月18日(火)～3月4日(火) 保護者がB L E N Dで回答
 B L E N Dで集計結果公表

2 集計結果

各質問の回答を、以下の数に変換して平均しています。

そう思う→5 やや思う→4 どちらともいえない→3 あまり思わない→2 思わない→1

質問項目	保護者平均	教員平均
生徒・保護者に「建学の精神」がよく理解されている。	3.46	3.00
教職員は、公平・公正に生徒と接している。	3.77	3.84
専大北上高校の教育活動に満足している。	3.93	3.65
教育課程や科のコースは、生徒の興味関心学びに向かう力の育成に適したものとなっている。	4.05	3.90
生徒は学習方法を身につけ、学習や課題に取り組んでいる。	3.67	2.69
生徒の学力は向上している。	3.48	3.20
進路指導において、資料や情報が行き届いている。	3.70	4.04
PTA活動は、円滑に行われている。	3.66	3.61
本校は、生徒の安全・健康に配慮している。	3.85	3.80
校舎・施設等は整備され、教育環境が整っている。	4.49	4.08
本校は、生徒会活動や学校行事が充実している。	4.13	4.22
いじめ問題への対応は適切になされている。	3.44	4.02
本校の部活動は活発に行われている。	4.44	4.63
本校の社会や地域とつながる課外活動は活発に行われている。	4.02	3.84
地域や中学生に対して、積極的に広報活動が行われている。	3.74	4.04
保護者に対する情報提供は適切に行われている。	3.94	3.92
本校はICTの活用に取り組んでいる。	3.76	4.16

回答数 461 49
 回答率 55% 60%

3 回答内容について

今年度の学校評価アンケートは、B L E N Dにより実施いたしました。

多くの皆様方にご協力いただき誠にありがとうございました。

この度、アンケート結果がまとまりましたので報告致します。今年度は調査項目を例年と変えた部分もあり昨年との比較はございません。特に評価の振るわない部分、そして教員との意識のずれが見られる点につきましては改善を図ってまいります。また記述によりご意見頂戴した部分につきましても、教職員一同、真摯に受け止め、生徒のために工夫・改善を図ってまいりたいと思います。これからも生徒一人ひとりを大切に、夢や希望に向かって邁進できるよう日々の教育活動と環境整備の充実に向けて取り組んで参ります。今後とも、保護者の皆様方には、変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。(校長)

専修大学北上高等学校

1. 学科名

普通科・グローバルビジネス科(商業科)・自動車科

2. 学年・学科別在校生徒数

令和6年5月1日現在

	学 科	入学定員	男 子	女 子	計
1 年	普 通 科	185	104	87	191
	グローバルビジネス科	80	40	41	81
	メカニック エンジニアリング科	35	38	0	38
	小 計	300	182	128	310
2 年	普 通 科	185	105	85	190
	グローバルビジネス科	80	34	45	79
	自 動 車 科	35	29	0	29
	小 計	300	168	130	298
3 年	普 通 科	185	86	90	176
	グローバルビジネス科	80	21	29	50
	自 動 車 科	35	18	0	18
	小 計	300	125	119	244
	合 計	900	475	377	852

3. 進学・就職の状況（令和7年3月31日現在の進路状況）

(1)進学状況 196（男子 93・女子 103）

（ ）は女子内数

区分 \ 学科	普通科	グローバル ビジネス科	自動車科	計
大 学	92 (33)	8 (3)	2 (0)	102 (36)
短期大学	7 (7)	0 (0)	0 (0)	7 (7)
専修学校	63 (43)	18 (16)	5 (0)	86 (59)
未 定	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
合 計	163 (84)	26 (19)	7 (0)	196 (103)

(2)産業別就職状況 48（男子 32・女子 16）

（ ）は女子内数

区分 \ 学科	普通科	グローバル ビジネス科	自動車科	計
農林漁業	県内			
	県外			
建設業	県内			
	県外			
製造業	県内	7 (4)	8 (0)	34 (12)
	県外		2 (0)	2
電気ガス業	県内			
	県外			
情報通信業	県内			
	県外			
運輸郵便業	県内	1 (0)	1 (0)	3 (1)
	県外			
卸売・小売業	県内	1 (0)		1
	県外	1 (0)		1
金融保険 不動産業	県内			
	県外			
宿泊・飲食業	県内	1 (0)		1
	県外			
生活関連、 娯楽業	県内			
	県外			
専門・技術 サービス業	県内			
	県外			
医療福祉	県内			
	県外			
複合 サービス業	県内			
	県外			
サービス業	県内			
	県外	1 (1)	2 (1)	3 (2)
公 務	県内	1 (0)		1
	県外	2 (1)		2 (1)
合 計	県内	9 (4)	9 (0)	40 (13)
	県外	4 (2)	2 (0)	8 (3)
	合計	13 (6)	11 (0)	48 (16)

令和6年度事業（教育活動）計画に基づいた報告
【北上福祉教育専門学校】

入学定員（90名）の充足を図り、社会の発展に貢献する実践的な専門職業人を育てる。

令和7年度入学生	保 育 科	52名（定員50名に対し	104.0%
	福祉介護科	17名（定員40名に対し	42.5%
	合 計	69名（定員90名に対し	76.7%

1 教育内容の充実について

達成度 A

コロナ前もしくはそれ以上に活発な授業を取り戻した。ICTの有効な活用も見られ、実習等対外的な教育活動も、順調に行うことが出来た。介護福祉士国家試験合格率は全国平均を上回り、就職進学率は両科とも100%を達成した。

（1）ICTを活用した効果的な授業運営に努める。

石巻専修大学との遠隔授業の他、平常授業でもICT活用の拡大がみられている。

（2）学生による授業評価を実施し、授業の質的向上に努める。

前期、後期の年2回、科目ごとに、学生アンケートによる授業評価を実施後、評価結果を集計し授業内容の質的向上に努めた。

（3）実習指導者会議を行い、実習指導者と連携した実習プログラムの開発を行う。

介護実習指導者会議は、全て対面開催した。実習プログラムを確認し、実習指導について共通理解を深めた。保育（教育）実習は、書面におけるプログラム確認となった。

（4）2年間の実習実践内容を総括し「実習実践研究収録」を作成する。

保育科「実習報告集」、福祉介護科「介護事例研究発表会報告集」を作成した。

（5）介護福祉士国家試験合格率向上に向け、対策講座を推進する。

国家試験対策講座は時間割に位置づけ、模擬試験を増やすなど強化した。

本校合格率は90.3%（全国平均78.3%）

（6）学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会を開催し、教育の質的向上に努める。

- ・学校関係者評価委員会を2回開催し、専任講師・職員への自己評価と、非常勤講師、保護者、学生、同窓生、実習施設へのアンケート調査による学校評価の内容を検討し、実施後はアンケート結果の振り返りを行った。
- ・教育課程編成委員会を科毎に年2回開催し、現在のカリキュラムの確認と今年度の振り返り、今後の方向性について検討した。

（7）丁寧な就職指導とキャリア教育の充実により就職率100%を維持する。

- ・キャリアコンサルタントによるキャリア講義を計8回実施した。
- ・両科とも、就職（進学）希望者全員が就職（進学）した。（100%）

2 教員の資質・能力の向上について

達成度 B

研究会・研修会・学会等は、現地・オンライン開催の併用で順調に参加出来た。
学内での教員研修会の他、学外での研修会については学内で概ね共有することが出来た。

（1）学内での教員研修会を開催し、一堂で教科指導、学生指導、専門士養成の研修を行う。

専任・非常勤講師一堂を会して開催することが出来た。資料を基に全体研修、科別研修を行った。また、専任講師を対象に、長期休み中に学内研修会を1回行った。

(2) 広く社会に貢献できる人材育成のため、研究会・研修会・学会等へ計画的に参加する。

保育科	全国保育士養成協議会セミナー、研究大会（オンライン）	1名参加
	全国保育士養成協議会東北ブロック研究会（オンライン他）	2回参加
福祉介護科	日本介護福祉士養成施設協会全国教職員研修会（オンライン）	3名参加
その他	全国専修学校各種学校総連合会東北ブロック研修会（青森市）	2名参加
	岩手県専修学校各種学校連合会研修会（盛岡市）	13名参加

(3) 授業力の向上に向け、公開授業を実施する。

公開授業週間を前期後期各一回ずつ設定し、専任講師（一部非常勤講師）の授業を公開した。授業内容・教育方法の感想や気付いた点について担当教員に伝えることで、授業実践の向上に繋がった。

(4) 実践及び研究の発表の場として、研究紀要の隔年発行を基本に取り組む。

令和5年3月に研究紀要第7号を発行し、国立国会図書館、全国幼稚園教員養成機関連合会や関係大学に配布した。6年度の投稿はなかった。

(5) 人事評価制度を活用し、教員個々の自己啓発の促進を図る。

人事評価制度の試行的導入3年を経て、6年度はスムーズな本格開始となった。教員個々の自己啓発に繋がっている。

3 連携強化について（系列校、地域、関係機関）

達成度 B

こども園とは、実習時期の変更（2年次→1年次）に向け連携を深めつつ、実習以外の行事でも楽しく行き来し交流した。石巻専修大学への編入学者は1名、1年生対象の説明会を行った。地域のイベント参加も増え、夢のキラキラ音楽会・介護事例研究発表会を成功に収めることが出来た。北上高校からの入学者は10名と昨年度を大きく上回った。

(1) 北上高校との高専連絡会議を設け、本校への進学20名を目指す。

高専連絡会議は2回行った。その他新任教員研修、保育・福祉系ガイダンス2回、高校学園祭ブース対応、保護者向けガイダンスを実施した。また、福祉・保育・幼児教育専攻の授業に、本校福祉介護科教員2名が毎週補助に入った。本校へは10名（保育8、福祉2）が入学、うち同専攻生徒は各科半数計5名であった。

(2) 同敷地内のこども園で、学生が日常的に見学・参加実習する等多くの交流を目指す。

1年生の園見学、プレ実習の他、ハロウィンイベント、表現の授業で交流した。

(3) 保育科指導大学の石巻専修大学とより連携を深めていく。

理工学部教授依田清胤先生には「自然科学概論」を、人間学部教授高橋寛人先生、新福悦郎先生には「教育制度論」及び教育課程編成委員をお引き受け頂きご指導頂いた。

6年度の編入学は1名であった。1年生の希望者を対象に、人間学部特任教授横江信一先生、本校卒業生に來校頂き、説明会を実施した。

(4) まちなかキャンパスとして、北上市やSVきたかみと連携を強化して保育・介護の啓蒙及び人材育成を行う（地域のイベント・ボランティアへの積極的参加、出前公開講座開催等）。

①地域のイベント（北上みちのく芸能まつり等）

北上みちのく芸能まつり市民パレードに全員参加し、60周年記念うちわを配った。

②各種ボランティア活動（県特別支援学校スポーツ交流会、北上ふれあいスポーツ大会等）

県特別支援学校スポーツ交流会には福祉介護科全員が、北上ふれあいスポーツ大会には福祉介護科2年生が参加した。保育科においては、子育て支援団体のイベントに10名が参加した。

③認知症支援～「チームオレンジすまいる」による傾聴活動ボランティア（福祉介護科2年生）を行い、北上市まちづくりコラボアワードで大賞を受賞した。

④北上市出前講座の登録と実施（中高生・一般向け）

「北上市生涯学習まちづくり出前講座」に2講座登録したが、依頼は無かった。

⑤学園祭の開催

学園祭は、一般公開して行い、来場者は420名であった。

⑥黒沢尻4区、8区ふれあいデイサービスでニュースポーツでの交流を3回行った。

⑦放課後等ディサービスニュースポーツ交流会を本校で2回実施し、福祉介護科1，2年生全員が参加した。

⑧認知症サポーターステップアップ研修（福祉介護科2年生）、認知症サポーター養成講座（福祉介護科1年生）を開催した。

⑨NHK介護100人一首へ福祉介護科1，2年生全員が応募した。

（5）実習施設等と連携し、行事への積極的参加や協力を行う。

実習施設の行事（幼稚園・保育園・障害者施設・介護老人福祉施設等）への要請が少しずつ増え、参加することが出来た。（保育科3カ所8名、福祉介護科6カ所28名）

（6）実習先の園児や先生方、保護者を招待して保育科「夢のキラキラ音楽会」を開催する。

11月15日、さくらホールで開催され、専大北上高校生、北上幼稚園3～5歳児他16園655名、保護者139名、合計794名に見て頂いた。

（7）実習先の先生方、保護者、卒業生を招待して、福祉介護科「介護事例研究発表会」を開催する。

12月19日、さくらホールで開催され、福祉介護科学学生、保護者、北上市、実習指導者、専大北上高校生、卒業生、教員を含め合計94名が参加した。教育課程編成委員の先生に講評を頂き、内容の濃い発表会となった。

4 広報活動の強化について

達成度 C

教職員が一丸となり、高校訪問、進路ガイダンス等の広報活動を行った。ホームページも定期更新し、SNS発信にも力を入れ取り組んだが、特に福祉介護科は、新卒者、委託訓練生、留学生ともに数が伸びず、定員に達することが出来なかった。

（1）WEB広報（HP、SNS等）を強化し、戦略の転換を図る。

X、インスタの更新は1日おきに行った。ホームページは定期更新した。

（2）報道機関へ情報提供し、メディアの積極的活用を図る。

入学式、卒業式、オープンキャンパス、夢のキラキラ音楽会、介護事例研究発表会等、全ての学校行事の取材案内を市内11ヶ所の報道機関に送付した。

（3）業者主催進学説明会、相談会へ積極的に参加する。

業者主催の進学説明会に123回参加した（昨年度83回）。遠方等により31カ所は参加できなかった。

（4）同窓会、後援会と連携し、広報活動の展開を図る。

同窓会総会を本校で実施し、協力依頼をした。HP等でも呼びかけ「同窓生推薦受験生の受験料免除制度」に同窓生より22名の推薦があった。（昨年度は25名）また、後援会役員会・総会・研修会を開催し、本校PRの協力依頼を行った。

（5）学生募集要項及び学校案内等の充実、作成を計画的に行い、早期完成を目指す。

学校案内は、保護者や高校生が読みやすいデザインに変更し4月上旬に完成した。

（6）高校教員向けに学校説明会を開催し、高校教員への周知を図る。

6月18日に開催。7校7名が参加し、説明後在校生と懇談した。

（7）全教員による県内外の高校への訪問（年3回）、出前講座を実施する。

- ・岩手県、秋田県、宮城県の高校を1～3回（延べ221校）教員全員で訪問した。
- ・出前講座は、花北青雲、平舘、宮古定時制、花巻農業で実施した。

(8) オープンキャンパス参加への積極的PR、学校見学の随時開催を行う。

①オープンキャンパスは年15回開催、総参加者153名(昨年116名)ニーズに合わせて土曜日以外や午後も追加実施した。

②学校見学 岩谷堂高校 41名 杜陵奥州校定時制21名

(9) ハローワークと連携し、社会人への募集活動の推進を図る。

・委託訓練事業(保育士養成コース、介護福祉士養成コース)へ応募し、ハローワークと共同で説明会を3回実施した(北上1回、遠野2回)。

・ハローワーク(奥州市、北上市、花巻市、一関市、遠野市)を訪問し、学校説明し募集活動を行った。

(10) 外国人留学生の募集活動を推進し、受け入れ体制の整備を図る。

・留学フェア(仙台市 年2回)に参加した。

・留学生対象の見学会3回(5名参加※リモート含む)開催した。

(11) 学生募集強化委員会を月2回開催し、スピード感をもって学生募集活動を行う。

毎月1回以上、学生募集強化委員会(学校長、部科長、入試広報部長)を開催し、広報活動の企画・運営・評価を実施し、学生募集の強化を図った。

5 安心・安全な環境整備について

(1) 校舎の老朽化、授業のICT化に伴う環境整備を計画的に実施する(1号館直通非常階段設置、校舎外壁、グラウンド周辺ネットフェンス、パソコン室機器整備)。

達成度 B

パソコン室機器更新、特別教室一部エアコン設置、1号館直通非常階段設置、グラウンド周辺ネットフェンス、グラウンドの整備は年度内に行われ、安心・安全な環境整備を進めることが出来た。校舎外壁については、次年度以降の持ち越しとなった。

6. その他

(1) 創立60周年記念事業実施(記念式典、記念誌作成他)

達成度 A

創立60周年記念式典は9月27日にさくらホールで開催された。式典に合わせ、記念誌と学校紹介動画の作成を行った。マスコットキャラクター「けいてい」は6月に誕生し、式典時にお披露目して当日キャラクターグッズの記念品を配布した。多くの皆さんにご寄付、ご協力頂きながら、無事に60周年記念事業を終えることが出来た。

令和6年度 学校評価(学校関係者)アンケート結果

評価(適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

評価項目			評価平均						昨年度 全体
			学生	学生 保護者	実習 施設	同窓会 役員	非常勤 講師	全体	
1	教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	3.7	3.6	3.8	3.7	4.0	3.7	3.6
2	学校運営	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.7	3.5	3.7	3.7	4.0	3.6	3.6
3	教育活動	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.7	3.6	3.7	3.7	4.0	3.7	3.6
4	教育活動	関係施設等と連携による実践的な職業教育(実習等)が行われているか	3.8	3.8	3.9	3.7	4.0	3.8	3.7
5	学修成果	就職率の向上が図られているか	3.7	3.7	3.7	3.7	4.0	3.7	3.6
6	学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.7	3.7	3.7	3.7	4.0	3.7	3.6
7	学生支援	学生相談に関する体制は整備されているか	3.7	3.6	3.6	3.7	4.0	3.6	3.6
8	学生支援	保護者と適切に連携しているか	3.6	3.4	3.5	3.4	4.0	3.5	3.4
9	学生支援	卒業生への支援体制はあるか	3.6	3.5	3.4	3.5	3.8	3.5	3.5
10	教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.6	3.4	3.7	3.7	3.8	3.6	3.5
11	学生の受け入れ募集	学納金は妥当なものとなっているか	3.7	3.5	3.6	3.3	4.0	3.6	3.5
12	法令等の遵守	個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	3.7	3.6	3.8	3.7	4.0	3.7	3.6
13	社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.7	3.7	3.6	3.7	4.0	3.7	3.6
14	社会貢献・地域貢献	学生のボランティア活動を奨励しているか	3.7	3.5	3.5	3.7	4.0	3.6	3.5
15	社会貢献・地域貢献	公開講座・教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか	3.7	3.5	3.5	3.7	4.0	3.6	3.6

1 調査時期

令和6年12月13日(金)～令和7年1月17日(金)

2 調査対象

学生(2年生)、学生(2年生)の保護者(職業訓練生、留学生を除く)、実習施設等(幼稚園、保育所、高齢者施設等)、同窓会役員、非常勤講師

3 依頼方法

アンケート調査用紙を手渡しもしくは郵送により依頼し、回収した。
保護者については、学生を通して担任が依頼、回収した。

4 回収率

全体	86.8%	(依頼数 234 回収数 203)
学生	100.0%	(依頼数 91 回収数 91)
学生の保護者	89.3%	(依頼数 84 回収数 75)
実習施設等	86.7%	(依頼数 30 回収数 26)
同窓会役員	46.2%	(依頼数 13 回収数 6)
非常勤講師	31.3%	(依頼数 16 回収数 5)

5 有効回答数

203

専修大学北上福祉教育専門学校

1. 学科名

保育科・福祉介護科

2. 学年・学科別在学生数

(令和6年5月1日現在)

	学 科	入学定員	男 子	女 子	計
1 年	保 育 科	50	7	31	38
	福 祉 介 護 科	40	10	10	20
	小 計	90	17	41	58
2 年	保 育 科	50	5	56	61
	福 祉 介 護 科	40	11	21	32
	小 計	90	16	77	93
	合 計	180	33	118	151

3. 就職・進学状況

(1) 就職者数・進学者数

(令和7年3月31日現在)

	保育科	福祉介護科	計
就 職 決 定 者	59	31	
就 職 未 定 者	0	0	
進 学 決 定 者	1	0	
合 計	60	31	

(2) 就職先の内訳

(令和7年3月31日現在)

	保育科	福祉介護科	計
幼 稚 園	0		
保 育 園	27		
認定こども園	18		
特別養護老人ホーム		24	
介護老人保健施設		4	
福祉施設他	13	3	
その他	1		
合 計	59	31	

4. 入学試験状況

(令和7年3月31日現在)

学 科	志 願 者 数			入学手続者数		
	男 子	女 子	計	男 子	女 子	計
保 育 科	5	48	53	5	47	52
福祉介護科	3	14	17	3	14	17
合 計	8	62	70	8	61	69

令和6年度事業（教育活動）計画に基づいた報告

【認定こども園専修大学北上幼稚園】

教育目標（げんきなこども おもいやりのあるこども みんなのしくあそべるようちえん）を具現化し達成していく。

1 教育内容の充実について

達成度 A

- ・職員のアクティブラーニングに対する理解や意識が高まってきたことで、子ども達の主体的な姿を引き出すことができるようになっていく。
- ・子ども達も日々の活動の中で、友達の気持ちを知ったり汲み取ったりする力、試行錯誤する力が育ってきているように思われる。
- ・事例の共有及び保育観察の結果を共通理解し、研究を深めることができた。
- ・保育の省察を、保育教諭一人ひとりが日々行い、毎日の反省会の中で気を付けることなどを共通理解し、子ども達の保育にいかすことができた。
- ・日々の保育で時間がない中ではあったが、園内研修を行うことができた。また、いわて幼児教育センターから講師を招いて保育を見てもらい話し合いを行うことで自分の保育を振り返るきっかけとなった。さらに研修の成果を生かして意欲的に保育を行う姿勢も見られた。

- (1) 日々の遊びから子どもたちの気づきや発見を活動に取り入れ、更なる「主体的な」「対話的で」「深い学び」に繋げる。(アクティブラーニング)

保育教諭一人ひとりが、子ども達の気づきや発見を大切に、次にいかす保育を心がけた。昨年度から取り組んでいるアクティブラーニングの成果である。

- (2) 支援を要する園児の姿を的確に捉えて、関係機関等につなぎ、保育や援助充実を図る。

支援教育コーディネーターを中心に、支援が必要な子どもに対して保育の援助や配慮を行った。

- (3) 毎日の「反省会」による保育の省察を行い、ヒヤリハット報告、検討を行う。

ヒヤリハット事案を共有し、日々の保育に繋げていくように心がけた。さらに注意深く保育を行っていききたい。

- (4) 園内研修のテーマ（ECEQ公開保育 東北大会）は、「子ども理解」とし実践例発表や保育観察を実施する。また、1号認定園児長期休業中に研修会を計画し、教師間（教育部と保育部）のコミュニケーションの充実を図り、資質・能力を高める。

※ECEQとは「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム」のこと（全日本私立幼稚園幼児教育機構）よりECEQ公開保育と東北大会の公開園を同時に行うための準備を行った。令和7年10月に行われる東北大会に向けて職員一丸となって取り組む姿勢ができており、この体制を生かし取り組んでいきたい。

- (5) 学校評価を実施し、結果を教職員で共有し、園経営の改善を図る。

保護者からのアンケート結果の記述に関しては、職員全員と共通理解を図り改善するように取り組むことができた。また、特に低かったふわふわちくちくことばの理解について、周知が足りなかったため、来年度は園から子ども達や、保護者に対してどのように取り組んでいるか明確にする。

2 教員の資質・能力向上について

達成度 B

- ・日々の保育の振り返りや研修会参加により視野を広げ、「学び続ける保育者」を目標に教員育成を行った。
- ・資質・能力の向上を図るために、計画的に研修会に参加することができた。
- ・研究部が中心となり、保育観察や園外への研修会に積極的に参加することで、様々な学びがあったと思う。また、県教委の講師から指導を受けたこと、そして令和7年度の東北大会での公開保育が身近に迫ったこともあり、職員の気持ちに前向きな変化が見られた。

(1) 専修大学の建学の精神をもとに、感謝と社会に貢献する心を持つ教員を養成する。

職員会議や反省会などで、資質・能力を高める資料を配布したり、説明したりして職員の意識を高めている。

(2) 日頃の教育実践や研究を通して「知識や技能」を身に付け、「思考力・判断力・表現力」を持つ教員の育成を図る。また、常に研修と修養に努め「学びに向かう力、人間性」を身につけようとする教員を養成する。

研究部が中心となり、保育観察や園外への研修会に積極的に参加することで、様々な学びがあったと思う。また、県教委の先生から指導を受けたことや令和7年度の東北大会での公開保育が身近に迫ったこともあり、職員の意識に変化が見られた。

(3) 適材適所を見極めて職務内容の整理と組織作りに務め、職務に専念し効率かつ迅速に行う習慣をつける。

職員の入院・退職などがあったが、職員の適正にあった組織作りができたと考える。

業務の迅速化を目指していたが、なかなか習慣化できず退勤時間を超えて残る日が続いた職員もあり、改善を図っていきたい。

(4) 本園事務部と専門学校事務部及び学園事務局の連携強化を図る。

事務長が変わり難しい部分もあったと思うが、全体的に事務部の連携は取れていた。

(5) 公開保育は、保育実践の可視化・共有化には重要かつ有効であり、これに着目して今後の研修をより高度化していく。

計画的に偏りなく研修会に参加できていたと思う。

(6) 保育教諭に求められる資質・能力を、不易なものと流行（今後特に求められるもの）の観点から明らかにする。

自己評価の結果をまとめ次年度へ向け改善が図られている。

(7) 学年のミーティング・職員会議による職員のチームワークを醸成する。

さらに、職員の連携強化を図り、互いに信頼し合える職場づくりを目指す。

学年のミーティングでは初めて主任を経験する職員もいて、なかなかうまく機能していなかった学年も見られた。職員会議で翌月の行事についてなど各部から提案をするべきことが、直前にあわててしまうことがあった。

(8) 人事評価により、職員の資質及び能力の向上を図るとともに園の教育力を高める。

人事評価では質問の仕方を変えたことで話しやすさが増した。

3 連携強化について（系列校、地域、関係機関）

達成度 A

- ・KTS（専修大学北上福祉教育専門学校）のカリキュラム変更に伴い、1・2年生全員の教育実習を教育部の各クラスで実施した。通常業務のほかに実習生に対する指導により、負担増となった。
- ・子ども達は各教室において楽しく参加できていたと思う。今年は高校の文化祭にも参加し校舎見学等させていただき、良い経験となった。
- ・幼保小交流では、学校内見学や小学生との生活科の授業内容など例年の交流の他、3学期には小学校の先生方をお呼びして、授業体験をしたことでより小学校への関心が高まり入学を楽しみにしている様子が見られた。
- ・地域の職場を訪問し日頃の感謝を伝えることができた。様々な職場を訪問することで色々な職業に興味関心を持つことができていいると思われる。
- ・中学生・高校生の体験学習の受け入れにより、将来保育に携わる人材育成へとつなげていくことができた。今後も可能な限り行っていくことが大切であると思われる。
- ・黒沢尻8区・9区の方々と5歳児がボッチャを行い交流することができた。5歳児にとって良い経験となった。

（1）専門学校の実習指導は、職員一人ひとりが指導教官としての意識を持ち学生に寄り添った指導にあたる。

（2）高校・専門学校等との連携による各種教室の実施

英語教室、サッカー教室、調理実習、お茶会等は、教師や高校生と対話を楽しみながら実施し子ども の関心・興味の幅を広げることができる。

うんどう教室は、色々な動きを通して調整力を養う。高校生による園見学や子どもとの触れ合いを通し、幼児教育に興味を持ってもらうことに努める。

（3）小学校、保育園、老人施設（遊戯を披露）との交流事業を推進する。

幼保小交流では、学校内見学や小学生との生活科の授業内容での交流など例年の交流の他、3学期には小学校の先生をお呼びして、授業体験をしたことでより小学校への入学を楽しみにしている様子が見られた。来年度も継続して行うことを希望する。

（4）地域の職場（消防署、北上駅、警察署、図書館、医療関係他）を訪問し、日頃の感謝を表す。

地域の職場を訪問し、日頃の感謝を伝えることができた。様々な職場を訪問することで色々な職業に興味関心を持つことができていいる。中学生・高校生の体験学習を受け入れることで、将来保育に携わる人材育成へとつなげていくことでできた。今後も可能な限り行っていくことが必要である。

（5）中学生の体験学習の受け入れ、高校生との交流事業を推進する。

子ども達は各教室に楽しく参加できていたと思う。今年は高校の文化祭に参加し、校舎見学をさせていただき、良い経験となった。

（6）北上市復職プログラム研修の受け入れを行う。

今年度も申し込みがなかった。

（7）黒沢尻8、9区の住民の方々とコミュニケーション図り、地域活性化の一助になることを目指す（交流会等）。

黒沢尻8区・9区の方々と5歳児がボッチャを行い交流することができた。5歳児にとって良い経験となった。

4 広報活動の強化について

達成度 A

- ・未就園児教室や園庭開放を行い、未就園児やその保護者が本園の良さを感じられるように取り組んできた。満3歳児保育も令和6年度から行うこととなったが、4名入園した。色々な面で子育て支援の充実を図ることができた。
- ・ブログで園生活の様子を保護者に伝えることができた。また、行事等では報道機関に来ていただきニュースや新聞等で本園の様子を保護者や地域の方々に伝えることができた。
- ・教務部がHPに写真を載せ、園からの情報発信を行った。

(1) 未就園児への40回の園庭開放を行い、育児や就園への相談にのる等子育て支援の充実を図る。

未就園児教室や園庭開放を行い、未就園児やその保護者が本園の良さを感じられるように取り組んできた。

(2) ホームページでの情報発信とブログでの園生活の様子、行事等の紹介を積極的に報道機関に依頼し、広報活動を行う。

ブログで園生活の様子を保護者に伝えることができた。

5 安心・安全な環境整備について

達成度 B

- ・月1回の安全点検がしっかりと行われ、危険なところ、改修が必要なところ、使い方について気を付けた方がいいところなど保育教諭自身が気づき改善するにはどうしたらよいか考えるようになった。また、バス運行のチェック体制については、しっかりと行うことができている。
- ・引き渡し訓練は、実際に行われることを想定した方法を考えて実施する必要がある。

(1) 月1回安全点検を行い、園内外の安全を図る。また、毎日、バス運行のチェック体制を整える。

毎月職員が安全点検を実施し、修繕が必要な部分を直し子どもたちが安全な園生活ができるよう取り組んでいる。バスについてもチェック表を利用し、安全に子ども達の送迎を行うよう努めた。

(2) 引き渡し訓練は、実際に行われることを想定した方法を考えて実施する。

引き渡し訓練は、毎年1回行うことができているが毎年同じになってきているので、別角度からの引き渡し訓練を検討することが必要である。

6 今後のこども園について

達成度 B

- ・子どもの権利を守り、「安心と挑戦の循環」を通して、子どものウェルビーイングを高めるように「楽しい遊び」の工夫に努めた。今後、本園が保護者に選ばれる園であり続けるように「質の高い幼児教育」を実践していく。
- ・令和5年度より0歳児を受け入れて2年が経過するが、0～5歳児の教育・保育において今後も一人ひとりに寄り添う教育・保育にさらに努めていかなければならない。
- ・未満児だけでなく、全クラスに見守りカメラを設置した。不適切な保育を未然に防ぐことに努める。

(1) 今後、本園が保護者に選ばれる園であり続けるように「質の高い幼児教育」を実践していく。

子どもの権利を守り、「安心と挑戦の循環」を通して、子どものウェルビーイングを高めるように「楽しい遊び」の工夫に努めた。今後、本園が保護者に選ばれる園であり続けるように「質の高い幼児教育」を実践していく。

(2) 令和6年度は、0歳児の年間指導計画を実施し改善を図りながら、安全な保育に努める。

0歳児保育2年目となり、スムーズな受け入れ態勢ができてきている。現在10か月からの入園としているが、当面10か月からの受け入れで行っていきたい。

(3) 未満児の部屋に防犯カメラを設置する。

全クラスに見守りカメラを設置した。不適切な保育を未然に防ぐことや、保護者からのクレームから職員を守ることにつながり、保護者にも職員にも安心感を与えられている。

令和6年度 学校評価に関わる保護者アンケート（こども園）

在籍数197名 提出数185名 提出率94%

1…そう思う 2…おおむねそう思う 3…どちらかといえばそう思わない 4…そう思わない 5…無回答

項 目	内 容	1	2	3	4	5
教育・保育方針について	1 園は、教育・保育目標や運営方針を分かりやすく伝えている	74.6%	24.3%	0.0%	0.0%	1.1%
	2 園は、教育・保育目標や運営方針を子どもたちの育ちに活かしている	71.9%	26.5%	0.5%	0.0%	1.1%
教育・保育内容等について	3 園は、子どもの発達段階や興味・関心に応じた保育を行っている	82.7%	16.2%	0.0%	0.0%	1.1%
	4 園は、外遊びやうんどう教室などを通して楽しく体力作りをしている	84.4%	14.6%	0.5%	0.0%	0.5%
	5 園は、園生活を通して、してはいけないことやルールを守る態度、ふわふわ・ちくちくことばをわかるように指導している	74.1%	23.8%	1.6%	0.5%	0.0%
	6 様々な行事は、子どもたちの様子や成長が分かり、保育の意義（学びや遊びの大切さなど）を知る機会となっている	88.1%	11.4%	0.5%	0.0%	0.0%
	7 園は、園全体で子どもの保育に取り組んでいる	85.4%	14.1%	0.0%	0.0%	0.5%
	8 子どもは、園での生活を楽しみ喜んで通っている	81.6%	16.8%	1.6%	0.0%	0.0%
	9 保育者は一人一人の子どもを理解し、個性に応じた援助をしようと努めている	76.8%	20.5%	1.6%	0.0%	1.1%
	10 保育者は、すすんであいさつを心がけ、子どもに温かい言葉遣いで接している	88.1%	11.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	11 保育者は、子どもの目線に立って分かるように話し、子どもの意欲や自信を育てるように声かけや支援に努めている	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
保護者との連携について	12 園での子どもの様子は、行事、参観日、園・学年だよりなどを通して知ることができる	74.6%	23.8%	1.6%	0.0%	0.0%
	13 園は、保護者の要望などに対して適切に対応している	76.8%	21.6%	1.1%	0.0%	0.5%
	14 園は、子どもの様子や連絡事項、怪我や病気等への対応を適切に行っている	80.5%	16.8%	1.1%	0.5%	1.1%
安全・環境について	15 園は、子どもの安全で心地よく過ごすための配慮（園内や園庭の安全点検・事故防止・避難訓練等）をし、危機管理や安全対策に努めている	84.9%	14.0%	0.0%	0.0%	1.1%
	16 園は、施設設備（保育室・園庭等）や教育環境の充実に努めている	88.6%	8.7%	0.0%	0.0%	2.7%
	17 園は、清掃や整理整頓が行き届いている	87.6%	11.3%	0.0%	0.0%	1.1%
	18 園は、個人情報の取り扱いに十分注意している	84.9%	11.9%	0.0%	0.5%	2.7%
保護者について	19 保護者は、園の教育・保育方針や運営方針に関心を持っている	64.3%	35.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	20 家庭では、早寝、早起き、朝ごはんなど基本的生活習慣に取り組んでいる	62.2%	36.7%	1.1%	0.0%	0.0%
	21 家庭では、おはよう、ただいま、おやすみ、ありがとう等のあいさつを励行している	79.5%	20.0%	0.5%	0.0%	0.0%
	22 家庭では、ふわふわ・ちくちくことばの理解をして、言葉に気をつけている	38.9%	57.9%	2.7%	0.5%	0.0%
	23 保護者は、園の行事など積極的に参加している	74.1%	24.8%	1.1%	0.0%	0.0%
	24 保護者は、子育てについて身近な人に相談している	70.3%	26.5%	2.7%	0.0%	0.5%

認定こども園専修大学北上幼稚園

1. 年齢別

0 歳児・1 歳児・2 歳児・3 歳児・4 歳児・5 歳児

2. 年齢別在園児数

(令和 6 年 5 月 1 日現在)

年 齢	入園定員	男 子	女 子	計
0 歳 児	3	2	1	3
1 歳 児	15	9	6	15
2 歳 児	18	7	11	18
3 歳 児	52	21	27	48
4 歳 児	52	21	32	53
5 歳 児	52	27	30	57
合 計	192	87	107	194

3. 入園志願状況

(令和 7 年 3 月 31 日現在)

年 齢	男 子	女 子	計
0 歳 児	1	2	3
1 歳 児	4	9	13
2 歳 児	2	3	5
3 歳 児	16	12	28
4 歳 児	2	1	3
5 歳 児	0	1	1
合 計	25	28	53

令和6年度 決算 の 概 要

「資金収支計算書」

(1) 収入の部

収入の部では、当年度収入合計が予算比6.3% 増の 1,408,163,183円となり、前年度繰越支払資金を加えた収入の部合計では予算比 83,946,183円増の 2,370,772,370円となっている。

学生生徒等納付金収入

予算額 543,240,000 円 決算額 549,295,700 円 差 異 6,055,700 円 増
納付金完納者数は高等学校 830名、専門学校 143名、こども園 196名。

手数料収入

予算額 11,860,000 円 決算額 11,735,200 円 差 異 124,800 円 減
志願者数は、高等学校 805名、専門学校 46名（同窓生推薦受験等の受験料免除者は含まず）

寄付金収入

予算額 13,900,000 円 決算額 16,964,732 円 差 異 3,064,732 円 増
専門学校創立60周年記念事業資金募金等の増による。

補助金収入

予算額 627,130,000 円 決算額 653,487,005 円 差 異 26,357,005 円 増
補正予算後の内示による高等学校補助金等の増による。

付随事業・収益事業収入

予算額 28,030,000 円 決算額 31,432,138 円 差 異 3,402,138 円 増
こども園一時預かり事業収入の増による。

受取利息・配当金収入

予算額 385,000 円 決算額 432,788 円 差 異 47,788 円 増
預金利息等による。

雑収入

予算額 7,400,000 円 決算額 10,633,956 円 差 異 3,233,956 円 増
高等学校校舎建替一体整備完成記念番組協賛金による増。

前受金収入

予算額 47,300,000 円 決算額 51,043,000 円 差 異 3,743,000 円 増
令和7年度入学予定者の入学(園)一時金と納付金、学生寮の令和7年度分寮費です。

(2) 支出の部

支出の部では、翌年度繰越支払資金を除いた当年度支出合計が、予算比 33,643,738円 減の 1,866,557,262円となっている。

人件費支出

予算額 754,820,000 円 決算額 748,889,703 円 差異 5,930,297 円 減
教員の休職等による本務教員給与支出の減による。

教育管理経費支出

予算額 409,740,000 円 決算額 388,695,279 円 差異 21,044,721 円 減
経費圧縮による減。

借入金等利息支出

予算額 12,010,000 円 決算額 12,393,779 円 差異 383,779 円 増
補正予算後に変動金利の金利上昇のため。

借入金等返済支出

予算額 133,184,000 円 決算額 133,184,000 円 差異 0 円
高等学校校舎借入、こども園園舎借入に伴う返済による。

施設関係支出

予算額 305,910,000 円 決算額 304,062,661 円 差異 1,847,339 円 減
高等学校人工芝グラウンド整備等による。

設備関係支出

予算額 57,300,000 円 決算額 55,203,098 円 差異 2,096,902 円 減
専門学校特別教室エアコン整備、パソコン教室整備等による。

資産運用支出

予算額 170,000,000 円 決算額 170,000,000 円 差異 0 円
有価証券支出、高等学校借入返済金準備引当特定資産、施設設備拡充引当特定預金、法人基金準備資産繰入支出による。

その他の支出

予算額 76,895,000 円 決算額 76,792,967 円 差異 102,033 円 減
前期末未払金支出による。

「事業活動収支計算書」

前記の資金収支計算書と共通の科目があるので、事業活動収支特有のものについて説明。

1. 教育活動収支

収入の部では、予算比3.4%増の 1,162,344,077円となり、支出の部は、予算比1.7% 減の 1,376,669,527円となった。教育活動収支差額は、予算比 22.4% 増の△214,325,450円となった。

(1) 事業活動収入の部

寄付金

予算額 13,900,000 円 決算額 13,370,732 円 差異 529,268 円 減
施設設備寄付金及び施設設備の現物寄付を除いた特別寄付金による。

経常費等補助金

予算額 520,163,000 円 決算額 545,987,326 円 差異 25,824,326 円 増
施設設備補助金以外の補助金となる。

付随事業収入

予算額 28,030,000 円 決算額 31,321,163 円 差異 3,291,163 円 増
高等学校自動車整備実習工場の棚卸品等が含まれる。

(2) 事業活動支出の部

教育管理経費

予算額 645,791,000 円 決算額 626,285,824 円 差異 19,505,176 円 減
減価償却額 236,902,991円が含まれる。

徴収不能額等

予算額 0 円 決算額 1,494,000 円 差異 1,494,000 円 増
徴収不能引当金として未収入金のうち徴収不能となるおそれのある額を計上しています。
内訳は高等学校卒業生の寮費674,000円、専門学校退学者の納付金820,000円です。

2. 教育活動外収支

収入の部では、予算比 12.4% 増の 432,788円となり、支出の部は、予算比 3.2% 増の 12,393,779円となった。

教育活動外収支差額は、予算比 2.9% 減の △11,960,991円となった。

経常収支差額では、予算比 21.3% 増の △226,286,441円となった。

3. 特別収支

収入の部では、予算比 4.3% 増の 113,794,059円となり、支出の部は、予算比 22.3%増の 3,102,750円となった。

特別収支差額は、予算比 3.9% 増の 110,691,309円となった。

(1) 事業活動収入の部

その他の特別収入

予算額 109,098,000 円 決算額 113,794,059 円 差異 4,696,059 円 増
施設設備寄付金及び現物寄付及び施設整備補助金による。

(2) 事業活動支出の部

資産処分差額

予算額 2,537,000 円 決算額 3,102,750 円 差異 565,750 円 増
耐用年数の経過した設備・施設処分差額による。

「貸借対照表」

貸借対照表は、令和7年3月31日現在の資産・負債・基本金等の状況を前年度末と対比して表示している。

この表は、資産の部・負債の部・純資産の部・負債及び純資産の部からなり、増減の△は減を示している。

資産の部

本年度末金額 5,331,485,580 円 前年度末金額 5,629,703,331 円 差異 298,217,751 円 減
前年度末に対し 5.3%の減。

資産には固定資産と流動資産があり、

固定資産は

本年度末金額 4,763,556,520 円 前年度末金額 4,472,601,650 円 差異 290,954,870 円 増
前年度末に対し 6.5%の増。

流動資産は

本年度末金額 567,929,060 円 前年度末金額 1,157,101,681 円 差異 589,172,621 円 減
前年度末に対し50.9%の減。

負債の部合計

本年度末金額 1,279,494,052 円 前年度末金額 1,462,116,671 円 差異 182,622,619 円 減
前年度末に対し12.5%の減。

固定負債は

本年度末金額 1,065,170,480 円 前年度末金額 1,231,694,680 円 差異 166,524,200 円 減
前年度末に対し13.5%の減。

流動負債

本年度末金額 214,323,572 円 前年度末金額 230,421,991 円 差異 16,098,419 円 減
前年度末に対し7.0%の減。

純資産の部合計

本年度末金額 4,051,991,528 円 前年度末金額 4,167,586,660 円 差異 115,595,132 円 減
前年度末に対し 2.8%の減。

基本金

本年度末金額 6,071,378,619 円 前年度末金額 5,785,248,518 円 差異 286,130,101 円 増
前年度末に対し4.9%の増。

繰越収支差額

本年度末金額 △2,019,387,091 円 前年度末金額 △1,617,661,858 円 差異 401,725,233 円 減
前年度末に対し24.8%の減。

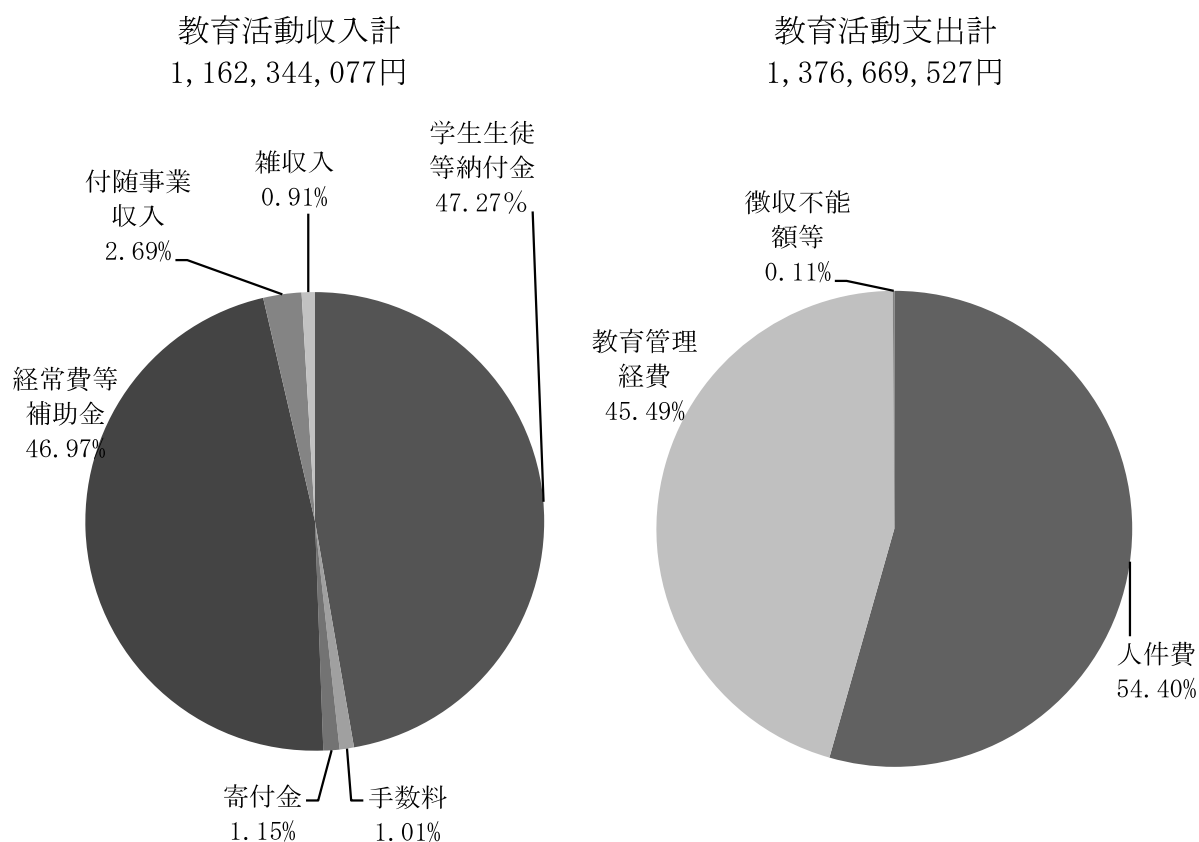
負債及び純資産の部合計

本年度末金額 5,331,485,580 円 前年度末金額 5,629,703,331 円 差異 298,217,751 円 減
前年度末に対し 5.3%の減。

以 上

(表1)

令和6年度 事業活動収支科目別構成グラフ



(表2)

主 要 財 務 比 率

比 率	算 式 (× 100)	令和4年度 (決 算)	令和5年度 (決 算)	令和6年度 (決 算)
人 件 費 比 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{経 常 収 入}}$	67.17% (63.2%)	66.25% (63.1%)	64.41%
人 件 費 依 存 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	145.59% (119.7%)	141.57% (119.0%)	136.34%
教育管理経費比率	$\frac{\text{教 育 管 理 経 費}}{\text{経 常 収 入}}$	39.47% (29.9%)	62.60% (30.3%)	53.86%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	17.55% (1.8%)	-12.54% (1.9%)	-9.06%

※ 経常収入は、教育活動収入計と教育活動外収入の合計

※ () 内は日本私立学校振興・共済事業団調査による高等学校部門平均値を示す。